

まえがき

現在、富田は JR 摂津富田や阪急富田の駅周辺を核として発展をつづけています。かつての富田の町並みは、駅の南方にある筒井池を中心に広がっていました。

しかし、その大半は埋め立てられてしまいました。もとは、本照寺のすぐそばまで池が広がっており、昭和40年代までは池に映る美しい寺の姿を見ることができました。

江戸時代には、筒井池の南北に連なる大きな村でした。江戸時代の絵図には、南西部に大きく筒井池が描かれ、北東に旧東岡宿、東側には紅屋、南側に教行寺、西側には普門寺、本照寺といった寺院が建ち並んでいる様子が描かれています。今もその多くが当時の姿をとどめており、富田の歴史的景観をかたちづくっています。



江戸時代の富田の絵図

そして、富田は「北摂三銘酒」のひとつに数えられるお酒の名産地です。現在も清鶴酒造と壽酒造が富田の地酒を守り続けています。また、富田は大阪で初めて地ビールがつくられた場所でもあります。

富田地区は、高槻市内唯一の台地であり、伏流水があり酒造りに使われています。

富田は、高槻城（平城）よりもむしろ要塞の地であったことや、富田が川筋から離れた台地の為に水害や地震に、高槻城付近よりも地盤が強い等の理由により古い街並みが残ったのではないかと考えられます。

富田を散策していると、敷地にゆとりがあり、手入れが行き届いた豊かな植栽・板塀のある家屋が数多く見られます。

このような事から、富田のまちは楽しい散策ルートが幾通りもあります。高齢化にともない健康を考え提案できるように、富田の“高槻まちかど遺産”をたどって楽しく、いつでも散策できる、“ガイドブック”を作りました。

“高槻 まちかど遺産”は、高槻市全域で現在 111 ケ所に説明板を設置しています。特に富田の狭い範囲に、現在 21 ケ所設置されています。

しかも“高槻 まちかど遺産”の説明板は小さい中に非常に濃縮して記載されていて、味わい深い説明板です。

この冊子は、これらの写真と説明文に補足説明を追記し「富田の“高槻まちかど遺産”ガイドブック」にしました。

富田の“高槻まちかど遺産”をたどり

変わりゆく富田を散策しましょう！！